



大日本帝国の侵略戦争推進によって、身体・知的・精神障害者は、どのような被害を受け、同時に加害者にもされてきたのか。また戦争によってひとびとはどのように障害者にされ、どのように遇されてきたのか。日露戦争以降、第二次世界大戦までの日本帝国のありようを軍隊と障害者の視点から映し出す資料集成。

◆十五年戦争極秘資料集 補巻28

●編

清水寛

資料集成

戦争と障害者

【第Ⅰ期】全7冊

精神障害を発症した兵士が送られた国府台陸軍病院の『病床日誌』を症状によって分類し、知的障害及び戦争神経症の事例約二、三〇〇件を収録。また反戦思想をもった兵士、逃亡兵士、窃盗・傷害等の事件を起こした者など「不良」兵士だけを集めた陸軍懲治隊及び陸軍教化隊、そしてそもそも兵役義務の免除者であるはずの知的障害者をも合格させた徴兵制度の問題、激しい戦闘や厳しく不条理な軍隊内でのストレスから精神障害を発症させた兵士らに関する調査・論考などを集大成。大日本帝国が兵士にそして障害者に何を求め、どう利用しようとしたのか、知られざる戦争と軍国主義の本質を明らかにする資料集！

A4判／上製／総約二、五〇〇ページ【編集復刻版】

各冊定価＝本体 一〇、〇〇〇円＋税

不二出版

刊行にあたって

清水寛 (埼玉大学名誉教授)

私たちが障害者問題史の研究にとりくみ、障害者の生存・発達の保障、人間としての自由の拡充、基本的人権の獲得、さらに自立と社会参加への足跡を掘り起こし、未来への展望を明らかにしていくとすると、必ずといってよいほど立ちちはだかる厚く重い壁がある。(貧困・差別・戦争)という三重の構造を持ち、たがいに分かちがたく連結している(歴史の岩盤)である。

とりわけ戦争は、多くの人々の生命を奪い、人間のからだを深く傷つけ、おびただしい数の障害者をつくりだし、無数の人たちのかけがえない人生を理不尽にねじまげ蹂躪してやまない。しかし、これまで戦争と障害者の問題に対しては、障害者・家族・関係者による戦時下の体験についての手記・証言・報告などがあるものの、組織的・系統的な実証的研究はほとんどなされておらず、関連資料の体系的収集も行われていない。

平和憲法を改悪し、日本が再び戦争をする国になる危険が強まりつつある今、明治期以降の日本の近代国家の形成・確立過程で繰り返し行われてきた戦争およびそれと一体をなす軍国主義体制のなかで障害者がどのような状況にあったかを明らかにし、そこから歴史的教訓を導き出し、人権・共生・平和な社会を築いていく展望を提示することはますます緊要な課題となっている。

『資料集成・戦争と障害者』は、以上のような問題意識に基づき、旧植民地朝鮮・台湾を含む、日本における戦争と障害者に関する重要な資料を可能な限り、広い視野に立ち、系統的・総合的に収集・整理して提供しようとするものである。

まず、戦争に関するもっとも基本的な物的・人的要素である軍隊に焦点をあて、それと障害者との関係を示す第一次根本資料のひとつとして「大日本帝国陸軍」におけるアジア・太平洋戦争期の知的障害と戦争神経症の兵員の『病床日誌』(病歴・診療・措置等の記録)、および戦争・軍隊と障害者・傷病者問題に関する各種の記事・論文・書籍を収録することとする。

なお、本資料集成に収録した資料・文献なども用いて執筆した論稿をまとめたのが、同時に刊行される、清水編著『日本帝国陸軍と精神障害兵士』であり、本資料集成の解説的性格をも有しているので、併せてお読みくだされば幸いである。

推薦します

現代に続く戦争の精神的後遺症

野田正彰 (関西学院大学教授)

ベトナム戦争の後、五年、十年、二十年とアメリカ精神医学雑誌やオーストラリア精神医学雑誌は「ベトナム戦争後症候群」について報告し続けた。あの当時、日本の精神医学者で「戦争神経症」に関心をもつ者はほとんどいなかった。一九八〇年代、歴史学者によって「従軍慰安婦」などの研究が進み、ようやく戦争による人間精神への暴力について、わずかながらも注目されるようになった。しかし、精神医学からの関心はあいかわらず起こらず、阪神大震災を経て、アメリカ精神医学会が提起した「精神的外傷後ストレス障害」(PTSD)が見直されるようになり、打って変わってマスコミの流行語にまでなっていた。

近現代の戦争についての歴史学者の研究と、PTSD概念の見直しの二つの流れが合わさって、今、埋もれていた「戦争と障害者」

「消耗品」としての兵士から近代戦争史を照射する

吉田裕 (橋大学大学院教授)

苛烈な戦闘に従事した将兵の中から、多数の戦争神経症患者が発生するという事実は、ベトナム戦争の帰還兵問題などを通じて、戦後の日本社会でもよく認識されるようになった。現在進行中のアメリカのイラク戦争においても帰還兵の中にPTSDがひろがっていることをメディアは報じているし、海外派兵の動きの中で、自衛隊も「コンバット・ストレス」の研究に着手している。

しかし、近代日本が戦った二連の戦争の中で、戦争神経症を発症した兵士や知的障害を持った兵士がどのような運命を辿ったのかという戦争史の基礎的事実は、意外なほど明らかにされていない。

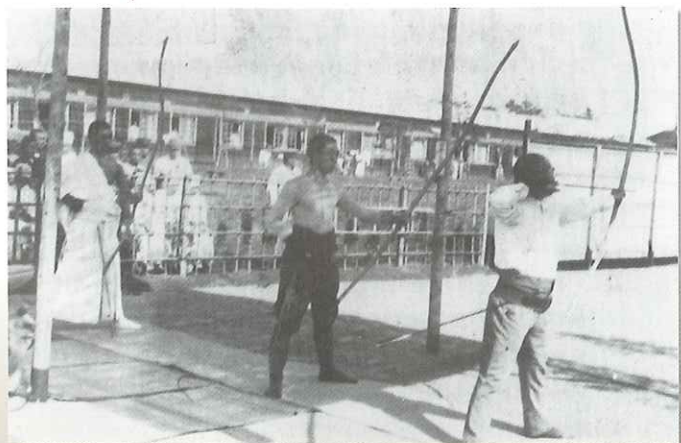
い。そうした中であって、清水寛氏は、この問題についての先駆的研究を着実に積み重ねてこられた。その研究の最大の特徴は、兵士を管理し、統制し、そして切り捨ててゆく国家の側に立つことを拒否し、「消耗品」としての名もない兵士の側によりそうこたによって、戦争の歴史を再構成しようとする一貫した問題意識である。清水氏の今までの研究の集大成がこの資料集だが、収録されているものの中には、研究者の間でさえ存在が知られていない貴重な資料が多数含まれている。本資料集成の刊行によって、あの悲惨な戦争の新たな実態が明らかにされることを期待したい。

の資料集が出る。隔世の感がする。しかもイラクやパレスチナなどの戦争が常態化し、国内では憲法改定の動きが騒がしくなっている。こんな時代、戦争が人間精神に何をもたらすか、じっくりと考えてみるべきであろう。

本シリーズにおさめられた知的障害、戦争神経症などについてのカルテは、国府台陸軍病院の八〇〇二件のカルテから抄録されたものである。焼却を命じられながら、当時の病院長によって次の時代の資料として隠され、浅井利勇氏がその複写を保管してきたものである。入手が困難な論文と共に、日本軍隊が兵士をどのように見ていたか、戦争体験は戦後の日本人の精神にどのような影響をあたえたか、尽きることない思索が湧いてくる貴重な資料である。



列車内での患者と護送衛兵



戦傷病者の運動療法として行われた弓道(国府台陸軍病院)



資料集成

戦争と障害者

【第1期】全7冊●概要

●編——清水寛（埼玉大学名誉教授）

●体裁——A4判・上製・総約二、五〇〇ページ【編集復刻版】

●揃定価——本体一四〇、〇〇〇円＋税

●配本——第1冊——『病床日誌』知的障害編Ⅰ

二〇〇七年二月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5759-0

第2冊——『病床日誌』知的障害編Ⅱ

二〇〇七年四月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5760-6

第3冊——一八八一年～一九三三年の諸資料

二〇〇七年六月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5761-3

第4冊——一九三四年～一九五九年の諸資料

二〇〇七年八月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5762-0

第5冊——『病床日誌』戦争神経症編Ⅰ

二〇〇七年一〇月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5763-7

第6冊——『病床日誌』戦争神経症編Ⅱ

二〇〇七年十二月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5764-4

第7冊——『病床日誌』戦争神経症編Ⅲ

二〇〇八年一月刊行 ●定価＝本体一〇、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8350-5765-1

●推薦——野田正彰（関西学院大学教授）

吉田 裕（二橋大学大学院教授）

関連図書のご案内

●編集復刻版

知的・身体障害者問題資料集成
戦前編 全16巻

●解説——高橋淳子・平田勝政

●A4判／上製／総約六、〇〇〇ページ

●揃定価＝本体四〇〇、〇〇〇円＋税

●推薦——清水寛／一番ヶ瀬康子／大見川正治／中村満紀男

中村満紀男

戦前期、「障害者」は国家・宗教・共同体・家族の中でどのように認識され、振り分けられ、保護され、疎外され、放置され、そして生き抜いたか。

学習障害児・知的発達障害児・肢体不自由児から傷痍軍人まで——知的・身体レベルの障害に関する調査報告書・リーフレット・教育啓発文書・施設案内・公文書等、資料群三〇〇余点を復刻！

●清水寛＝編著

日本帝国陸軍と精神障害兵士

●A5判／上製／約三五〇ページ

●定価＝本体五、八〇〇円＋税

ISBN4-8350-5754-6

大日本帝国は、侵略戦争遂行にあたって、障害者者どのように遇し、またその人権を無視して翻弄したか。また不条理な軍隊生活と非日常の極限状況である戦場において、精神障害を発症した人々は、どのように生き抜き、あるいは斃れたのか。日露戦争以降の「不良」兵士・知的障害兵士だけを集めた陸軍懲治隊・陸軍教化隊から、「未復員兵」と呼ばれ、精神病棟に置き去りにされた元兵士の現在まで、帝国の精神障害兵士たちを綿密な資料と調査で追跡した、終わらない戦争の本質を見つめる初の研究書。

●表示価格はすべて税別。

不二出版

T113・0023
東京都文京区向丘1・2・12
電話03・3812・4433
ファクシミリ03・3812・4464
振替00160・2・94084